

第1回協議会の振り返り 課題整理の進め方

【第2回静岡県地域公共交通活性化協議会】

令和4年12月23日
静岡県地域公共交通活性化協議会事務局

富国強種の理想郷 - しずおか
ふじのくに



1

目次

- 1 第1回協議会の振り返り
- 2 第2回協議会までの実施事項
- 3 課題整理の進め方

1 第1回協議会の振り返り

(1) 概要

	項目	内容
1	地域公共交通を取り巻く状況	人口の動態、運転免許返納者の増加、公共交通利用者数の推移
2	活性化再生法の改正	法改正の経緯、法改正と乗合バスへの補助制度との関係
3	地域公共交通計画の策定	策定の目的、計画の位置付け、分科会の設置、地域公共交通に関するロードマップ、法的根拠・記載すべき事項、計画の概要
4	今後の予定	全体スケジュール、第2回協議会及び分科会での検討内容の提示、調査の依頼
5	(参考) 事前アンケートの結果	地域公共交通において重要だと感じる項目、新技術の導入に関するアンケート結果

3

1 第1回協議会の振り返り

(2) 主な意見・提案

<p>(学識経験者 鈴木委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・ MaaSなど使用する言葉の認識、イメージを共有しながら議論を。・ 災害対応なども考慮した計画に。・ 各市町や交通事業者が今までにやってきた工夫を調査し、他地域の参考に。
<p>(学識経験者 宇都宮委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 目指すべきゴールを定め、バックキャストで何をするか決めるべき。・ 単に事業者の運輸事業をどのように維持するのかの議論でなく、交通モビリティ全体を考えた計画に。・ アンケートは、住民の声も分かるような形で。
<p>(遠州鉄道(株) 諸井委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・ バス事業者にとって一番大きな課題は、運転手を含めた業務員不足。・ バスや鉄道の運転手は、「地域交通を支えている」という気持ちで頑張っている。働く現場が地域の役割を担っているということも、情報発信を。
<p>(袋井市 鈴木委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 公共交通の利用者に声を掛けていくことが大事。中学生、高校生にも路線バス等の利用のPRや動機付けを。

方針、今後の進め方にご了承頂きました。 4

2 第2回協議会までの実施事項

現状分析、課題整理のため、次の事項を実施しました。

市町・事業者を対象としたアンケート調査

県民を対象としたアンケート調査

交通事業者とのヒアリング

地域分科会の開催

西部地域（11/15）、中部地域（11/18）

東部地域（11/22）、伊豆地域（11/25）



西部地域分科会（11/15）

2 第2回協議会までの実施事項

各分科会で共通する主な意見・提案

（公共交通の運転者について）

- ・バス運転者のメインが50歳代。この層が退職すると、運転者が一気に足りなくなる。
- ・タクシー運転者の高齢化が進んでいて、どの地域でも乗務員不足が問題。
- ・運転手の年収は世間の平均以下。公共交通の担い手の待遇は良くない。
- ・若年層が運転手になりたがらないのは、公共交通の運転手に旨味がないから。

（公共交通の利用促進について）

- ・公共交通を維持していくため、公共交通の利用促進を図る必要がある。
- ・バスの乗り方教室を実施し、利用を促進したい。
- ・市町が鉄道利用のPRをしてくれれば、利用者の増加が期待できる。
- ・鉄道がイベントや小旅行での交通手段となるよう、地元への周知を強めたい。
- ・自動車への依存度が高く、公共交通への取り込みが課題

（公共交通の使いやすさについて）

- ・アンケートをとると、公共交通の満足度が低い。個別交通との比較のほか、ダイヤ設定や便数の減が原因か。
- ・バスに乗らない方が多いのは、鉄道駅に接続する本数の不足が原因ではないか。
- ・鉄道の駅から出たら、まずタクシーに乗るという方は多い。
- ・バス停が遠いと感じている方が多い。

2 第2回協議会までの実施事項

伊豆地域分科会（11/25）での主な意見・提案

（観光客と地域住民の移動ニーズの違いについて）

- ・伊豆といえば観光だが、地域住民の生活も存在する。双方が混在している。
- ・観光の施策と地域住民向けの施策は一致しない。双方のニーズを把握すると良い。
- ・地域住民のニーズと観光客のニーズがあり、共存を考えていく必要がある。

（交通空白地について）

- ・伊豆半島地域では居住地が広域に点在する。サービスをどの程度維持するか。
- ・交通空白地では、自家用有償旅客運送など、ドアツードアの施策を検討中。
- ・交通空白地では、福祉部門と共に、デマンド交通やコミバスなどを検討中。
- ・デマンド交通のニーズが増加。ボランティアによる福祉輸送の実証実験中。

（観光客の移動手段について）

- ・踊り子とサフィール踊り子は、首都圏からの誘客で大きな役割を果たしていると思う。
- ・電動キックボードやシェアサイクルは、土日、観光客の利用が多い。
- ・交通結節点と周辺施設にこれらモビリティを配備できれば、回遊性が高まる。
- ・観光客に向けては、使って面白いもの、ユニークなものがないのではないかと。
- ・伊豆縦貫道の整備が進めば、自動車の利用増が見込まれるため、鉄道会社にとって脅威となりうる。

7

2 第2回協議会までの実施事項

東部地域分科会（11/22）での主な意見・提案

（交通結節点間の移動について）

- ・新富士駅と富士駅との接続の利便性は課題。タクシー、バスとの連携が必要。
- ・当自治体の多くの学生が、公共交通で、沼津、三島に通学している。
- ・三島駅へのアクセスは重要であり、考えていく必要がある。
- ・三島、沼津間の移動が一定程度あり、検討する余地がある。

（交通渋滞について）

- ・朝の渋滞はひどい。この他、道路規制や時間帯など様々な要因で渋滞が発生。
- ・大型商業施設への来客が、渋滞に拍車を掛けている。
- ・当事務所の管内では、市街地を中心に渋滞が発生している。解消に向け、国道、県道の整備等により、アクセス向上を図っている。
- ・働き方改革で、企業が共同し、作業時間をずらすなどの取組を講じてほしい。

（自家用車以外の移動手段について）

- ・市外からの観光客が、沼津港に自家用車で訪れる。公共交通への取込が課題。
- ・自家用車ですべてまかなうのではなく、公共交通にシェアサイクルや電動キックボードなどの短距離の移動手段を加えることを議論すべき。

8

2 第2回協議会までの実施事項

中部地域分科会（11/18）での主な意見・提案

（デマンド交通について）

- ・中部地域には、デマンド交通に取り組んでいる市町が多くある。
- ・高齢者、障がい者の足として、多くの地域でデマンド交通に取り組んでいる。
- ・デマンドタクシーは、自治体では運行できず、タクシー事業者の力が必要。
- ・デマンドタクシーと路線バスを当自治体の交通結節点まで延伸する。

（交通弱者の移動について）

- ・自転車や自動二輪の活用よりも、自ら動けない方の移動が課題。
- ・当自治体では、バス停が遠い方、タクシーが使えない方、家族の送迎が受けられない方の移動が一番の課題。自力で移動できる方は、公共交通が使える。
- ・現場としては、高齢者など移動できない方の通院、買物が課題。

（観光客の移動について）

- ・空港は中部地域にあるが、県外から来た方は、中部地域で観光というより、富士山方面へ、又は浜名湖や名古屋方面に通り抜けていくようだ。
- ・大井川鉄道への観光客は、新金谷や千頭までマイカーで来て、鉄道に乗ってマイカーで帰る人が多い。

9

2 第2回協議会までの実施事項

西部地域分科会（11/15）での主な意見・提案

（鉄道駅からの移動手段について）

- ・JRの駅から目的地までは、他の公共交通を利用することが多いため、バス・タクシーなどの交通手段とどう連携するかが課題。
- ・当社のバス路線は、路線の運行距離が長い割に利用者数が少なく、効率が悪い。
- ・バスに乗らない理由は、JRに接続する本数の不足が原因ではないか。
- ・基本的に行きたいところへの本数が不足している。
- ・路線の運行距離が長いものの、途中で折り返すのに適したポイントがない。
- ・きめ細やかに本数を多くしたいところ、実際は目が粗くて本数が少ない。
- ・エリアが小さくなくても本数を増やせば、利用につながる。

（自家用車の利用について）

- ・車社会であり、通勤で公共交通は使わない。
- ・昔から車中心で移動。バス、タクシー、鉄道という文化がない。車が便利だ。

（自家用車の交通分担率について）

- ・本県の自動車分担率が63.9%とあるが、全国で何番目か。

10

3 課題整理の進め方

目指す姿、
目的地(ゴール)設定

問題点抽出
課題整理

ビジョン

GAP

目標

現状

現状分析

次回以降

プラン編での
具体的施策の検討 など